

事故のない明るい町をつくらう

夏の交通安全運動

夏の交通安全運動が始まった七月二十一日、役場前で第十八回リレー式青空交通安全大会が開催されました。

その名の通り、澄んだ青空に恵まれた同大会には、母の会や町内保育所の園児など約二百人が参加。中里町から金木町へ、交通事故防止を訴えるリレー旗の引き継ぎが行われ、続いて金木町交通安全対策協議会々長の鳴海町長が「交通量が多い現在、事故を

無くすことは大変ですが、一人ひとりが意識を持って努めましょう」とあいさつ。葛西文昭金木地区安全協会長と山口康男金木警察署長が交通安全を呼び掛けました。

最後に、第一保育所の川口翔永くと田中理奈ちゃんが「道路に飛び出しません。道路では遊びません。交通ルールを守ります」と声を合わせて元気に安全宣言をし、参加者全員で交通安全を誓いまし

た。

後日、各保育所の園児たちがドライバー一人ひとりに交通安全マスコットを配布し、安全運動を呼び掛けました。



▶声を合わせ安全宣言



▲「火の女神」から火のリレーがされる

川倉小学校 親子キャンプ

川倉小学校PTA（会長＝大佐賀尋嗣）が主催する「親子キャンプ」が七月二十二日、全校児童と教職員、父母ら約百二十人が参加して、町営オートキャンプ場で開催されました。

この親子キャンプは、児童、PTAの交流と親子のふれあいを深める活動として毎年実

施され、「子どもたちの自主性を育てよう」という狙いからキャンプファイヤーの準備やテントの設営などは児童たちが協力し合い行っています。その他、花火や出店、きもだめしとたくさん催し物が行われ、中でも目玉であるキャンプファイヤーでは、手作りのトーチを持った児童ら全員が火のリレーをして友情を深め、夏休みの楽しい夜を過ごしました。



▲トップバッターとして祭りを盛り上げた金木さなぶり荒馬



▲観客と一体となった青森ねぶた囃子保存会に組

ステージに燃える魂

第十三回 津軽の火祭り

五穀豊じょうを祈願する「第十三回津軽の火祭り」が七月三十日、津軽三味線会館野外ステージで開催され、夏の暑さを吹き飛ばす躍動感あふれるステージが次々と繰り広げられました。

津軽の四季を郷土芸能で表現する第一部では、「金木さなぶり荒馬」「木造・縄文荒吐太鼓」「青森ねぶた囃子保存会に組」が笛や太鼓、踊り

を披露。力強い演奏と迫力ある踊りの数々に、客席からは盛大な拍手と歓声が送られていました。

また第二部は、毎年恒例となった「大館曲げわっぱ太鼓」のステージ。全国屈指の実力と若さはじけるパフォーマン

金木小学校

ソフトボール部 県大会優勝 相撲部 全国大会

4年生横綱 野上 怜君・5年生小結 津島祐希君



各大会で輝かしい成績をあげた金木小学校（校長 齋藤憲治）の相撲部とソフトボール部の選手が八月十日、役場を訪れ、鳴海町長らに結果の報告をしました。

全国約五万人のわんぱく力士の中から勝ち抜いた、百五十人余りの精鋭が参加する「第十六回わんぱく相撲全国

大会」が七月三十日、東京都両国国技館で開催され、四年生の部で野上怜くんが見事優勝して横綱となり、五年生の部で津島祐希くんが小結に輝きました。西北五地区の代表として県大会を勝ち抜き、全国大会でも期待通りの活躍を見せた両選手。トロフィーとカップ、メダルを胸にあいさ

つしました。四年生横綱の野上くんは「優勝する自信はありました。来年は土俵入りがあるのもっと頑張ります」と話していました。

また、部員十八人のソフトボール部は原真紀監督に引率され試合の結果を報告。七月二十九・三十日に天間林村で開催された第十二回青森県スポーツ少年団フェスティバルと八月一日から三日にかけて上北町で行われた青森県女子ソフトボール選手権大会の両大会で見事優勝の栄冠を勝ち取り、大活躍した選手一人ひとりを紹介しました。キャプテンでセカンドを守っている大橋可淑さんは「試合まで毎日練習してきました。決勝の相手野沢小学校（浪岡町）は強いチームなのであまり自信がなかったけど、気持ちで勝っていたから優勝することができたと思います」と試合を振り返っていました。最後に鳴海町長が「優勝おめでとう。立派な大人になるには勉強だけでなく、皆さんのようにスポーツをする事も大事です。心と体を鍛え、これから頑張ってください」と選手たちを祝福しました。

津軽半島と太宰ゆかりの地 バスツアー

太宰を語る「津軽」の集い



▲第1回太宰を語る「津軽」の集い
ゲストの小野正文氏が太宰との思い出を語り、ホストの伊奈かっぺい氏が楽しいトークで盛り上げる

津軽半島交流アクセスバス運行記念事業実行委員会（実行委員長 鳴海義男）が主催する「津軽半島と太宰ゆかりの地バスツアー」と「太宰を語る『津軽』の集い」が七月二十日から八月二十日までの期間に四回開催され、町内外から多くの参加者が訪れました。太宰治記念館「斜陽館」前を出発し、小泊村の小説「津軽」の像記念館、三厩村と蟹田町の太宰文学碑を見学するコースのバスツアーでは、木下巽太宰会々長や小説「津軽」の像記念館の柳沢良知館長が

ボランティアガイドを務め、太宰ゆかりの地を一所ずつ分かりやすく案内。参加者らは、配布された資料を片手にコースを巡り、小説「津軽」に対する理解を深めていきました。また、太宰研究の第一人者として知られる東郷克美氏をはじめとするゲストを迎えて開催された「太宰を語る『津軽』の集い」には、毎回大勢の聴衆が詰め掛け、太宰文学や人物像など、太宰にまつわる様々な講演に熱心に耳を傾けていました。

太宰をしのぶ²⁸ 太宰とその文学の魅力(8)

金木町太宰会々長

木下 巽

「雀」(五)

「タキは、わらはさ、なにやらし、こちよこちよと言うつけたずおん。わらは、それ聞き、にくらくらて笑ひ笑ひ、歌つたずおん。
—羽こ、ねえはで呉れらえね。
—羽こ呉れるはで飛んで来い。
—杉の木、火事で行かえない。
—その火事よけて飛んで来い。
—マロサマは、タキのばおばおて飛んで来るのば、とついたらとして待つてゐたずおん。したどもし、向うの方圖で、ゆつたらと歌るのばおん。
—川こ大水で、行かえない。
—マロサマ、首こかして、分別したずおん。なんて歌つたらええべがな、て打つて分別して分別して、
—橋こ架けて飛んで来い。
—タキは人魂みんた眼こおかしく燃やし、獨りして、歌つたずおん。
—橋こ流えて行かえない。
—マロサマは、また首こかして分別したずおん。なかなか分別は出て来ねずおん。そのうちにし、聲たてて泣いたのばおん。泣き泣きしゃべつたとせえ。
—あみださまや。
—わらは、みんなみんな、笑つた

ずおん。

—ぼんずの念佛、雨、降つた。

—もくもつけの泣けべつちよ。

—西くもて、雨ふつた。雨ふつて、雪とけた。

そのときにし、よろずよやのタキは、きづきつと叫びあげたとせえ。

—マロサマの愛ここや。わのころこ知らずて、お念佛。あはれ、ばかくさいぢやよ。

さうしてし、雪だまにぎて、マロサマさぶつたずおん。雪だま、マロサマの右りの肩さ當り、ばららて白く砕けたずおん。マロサマ、どつてんして、泣くのばやめてし、雪こ溶けかけた黄はだの色ふる野ば、どんどん逃げていったとせえ。】

雪玉の一撃

タキを欲しがつて歌いつづけるマロサマに対して、タキは、「人魂…(夜淡く、光りながら飛ぶもの・死者の魂とみなしていることば)…みんな眼こおかしく燃やし…」、次々に難題をふっかけマロサマを困らせます。やがて分別の尽きたマロサマは、ついに泣き出して、「あみださまや、助けて…」と哀願します。

タキはきずきず…(きずは「氣隨」で気持ちのおもむくままにまかせること、荒々しく、からきず)…の声で、「マロサマの愛ここや。わのころこ知らずて、お念佛。あはれ、ばかくさいぢやよ。」と叫び、マロサマに雪玉をぶつけます。雪玉、マロサマの右肩にあたつて砕けます。マロサマどつてんして、泣くのやめて、ひとり広野をどんどん逃げて行つたさうです。



婆さまのこたつで昔噺を聞くのばおん。

筆・櫻庭利弘氏

「愛」(一)「や」

ここで注目したいのは、タキが荒々しく叫ぶ台詞です。「愛ここは、可愛い子、「めぐ(愛い)」は

「め(目)ぐ(苦)し」の意で、見るのも切ないほどに可愛いとする意。また、「愛ここ」は、津軽弁では逆に「厄介者、困つた代物、あぶれ者」などの卑称語として用いることもありませう。

直訳すれば「可愛い子のマロサマよ。私の本心も知らないで、お念仏なんか唱えて、あわれ、ばかくさいぢやよ。」となつて、タキがマロサマに同情している台詞になります。だとすれば、なぜタキがマロサマに雪玉をぶつけたのか理解に苦しむことになります。

愛こ憎い

ここでの「愛こ憎い」を逆説的な意味と解釈し、「マロサマの馬鹿野郎!嫌がる私の気持ちを知らないで、仏さまにお祈りするなんて!あ、ばかくさいぢやよ。」というのが一般的な説です。ここには、愛とか優しさが感じられませんが、十歳前後の女兒タキが「愛こ憎い」という時には逆説もなく「愛こ憎い子」だと思ふんです。「わの心知らずて」のなかに、タキの本心が秘められているようです。しかし、「あはれ、ばかくさいぢやよ」と、憎しみに変心していきます。

津軽弁に「愛こ憎い」という言葉があります。愛と憎しみです。これは表裏一体のもので、どんな人間でも具えている本能です。その愛と憎しみをどうすることもでき

きないところに人間の悲しみがあり、優しさとか慈悲を求めるのです。太宰さんは「津軽」に、「汝を愛し、汝を憎む。」と書いています。

愛の一投

タキの雪玉は、そんな複雑な思いを込めた愛の一投だつたと思ふのです。「お念仏を唱えないで、声がつぶれるまで歌い続けければ、私がマロサマの方圖へ飛んでいったものを…」このように読み取りますと、「雀」は「行き違ひの愛」とか「全く一方通行の切ない片想い」ではなく、タキの荒々しいしぐさの中に、マロサマに対する女の子としての微妙な想いが、ほのかに伝わってくるのです。これも津軽弁「雀」の面白さです。

「雀」こつちばれ。

【そろそろと晩げになつたずおん。野はら、暗くなり、寒くなつたずおん。わらは、めいめいの家さかへり、めいめいの婆さまのこたつこさもぐり込んだずおん。いつもの晩げのごと、おなじ昔噺をし、聞くのばおん。
長え長え昔噺、知らへがな。山の中に橡の木いっぽんあつたずおん。
そのてつぺんさ、からす一羽来てとまつたずおん。
からすあ、がて啼けば、橡の實あ、一つぼたんで、落つるずおん。……】

尿所見異常について

内科 井沼 洋

健診において尿検査は必須項目であり、尿所見異常を指摘される人も少なくありません。そこで、尿所見異常について考えてみたいと思います。

尿は腎臓で造られます。腎臓は腰椎の左右に一個ずつあり（ほぼ腰に両手をあてた時の位置）、長径約一〇～一二cm、横径約五～七cmの大きさでソラ豆の形をしています。腎臓の内部は糸球体と尿管から成り、血液中から糸球体を通して水分や分子の小さい物がろ過され（原尿）、それが尿管の中を通過して行くうちに体に必要なものが再吸収されて尿が作られます。その尿が尿管を通過して膀胱にためられ排尿されます。

が必ずしも病気の存在を示すものではなく、病院での二次検査を必要とします。これから個々の例について考えてみます。

蛋白尿

腎臓病にかかると多くは尿に蛋白が出てきます。また、腎臓病がなくなると心不全、発熱時、激しい運動後、精神緊張時などに蛋白尿が見られることがあります。特殊なものに起立性蛋白尿があり、起床時尿には蛋白は含まれないが、健診とか病院受診時の尿に蛋白が認められるもので、比較的若い人に見られます。年齢の人では良性腎硬化症があり、高血圧症が十年以上経過したときに蛋白尿が見られるものです。

検査し蛋白が含まれているかどうか調べます。もし、数回の尿検査を行って蛋白が持続する場合は、腎臓病を含めた精密検査が必要となります。

血尿

尿に血液が混じる場合を血尿といいます。血液が多く含まれると、尿は赤から赤褐色になり肉眼でもわかるため肉眼的血尿というのに対し、血液の量が少ないために尿の色は普段と変わりなく、試験紙や顕微鏡で調べて初めてわかる血尿を顕微鏡的血尿とい、検診での血尿のほとんどが含まれます。試験紙法では疑陽性（実際は血尿ではないが血尿であると判定すること）の場合もあるので、血尿を指摘され外来受診されたときは、尿に赤血球がどのくらいふくまれているか顕微鏡で調べる必要があります。これで異常がみられた場合は、その血尿が腎臓の糸球体由来する糸球体性血尿か、腎臓より下部（尿管や膀胱）に由来する尿路性血尿か調べます。通常、糸球体性血尿の場合には①血尿に蛋白尿を伴うことが多く、赤血球円柱を認める②尿に含

まれる赤血球の約八〇%以上に変形像が認められる等により鑑別できます。その後、血尿の部位に合わせた精密検査が必要です。

糖尿

尿に糖が含まれる場合を糖尿といい、二つの原因が考えられます。まず、血液中の糖が高いために原尿中の糖が多く、尿管での糖の吸収が追いつかず尿に糖が含まれる場合で、糖尿病を考えなければなりません。次に、血液中の糖は正常であるが尿管に障害があるために、原尿からの糖の吸収能が低下している場合で、腎性糖尿とい腎臓病が考えられます。よって、糖尿がみられた場合は精査が必要とします。

結び

健診における尿検査（試験紙法）は短時間で容易にできる検査法です。しかし、尿所見異常のなかには腎炎、血液疾患、悪性腫瘍（癌）、糖尿病等いろいろな病気を発見する糸口となる場合があります。健診で尿所見異常を指摘されたがまだ精査していない方は、早めに二次検査を受けるようにお願いします。



伝言板

- 届いています
- 七月十七日
- 手提げバック(グレー)
- 芦野公園内
- 心当たりの方は、金木警察署落し物係まで。
- 係から
- このコーナーを利用したい方は役場企画観光課まで。

お詫びと訂正

広報かなぎ七月号に誤りがありましたので訂正してお詫び申し上げます。

▼十ページ

「おめでとう」欄の葛西優芽ちゃんの振り仮名は「ゆうが」でした。

はじめまして



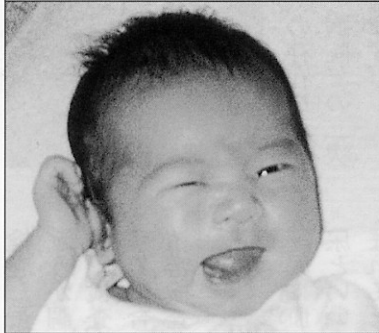
ひびき

素直な子に育ってほしい
(母 ゆかより)



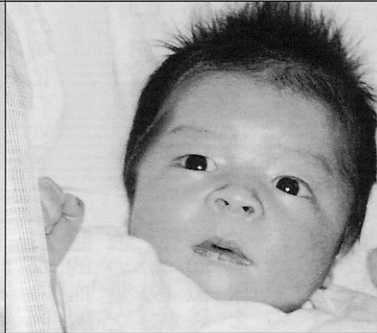
実 楽

この町の住民になるので皆さんよろしく願います (家族より)



ゆきの乃

優しい女の子になってね
(父 修一より)



しゅんすけ 駿 佑

元気いっぱい、夢いっぱい好奇心旺盛な子に育ってください (両親より)



こうし 洸 士

早く一緒に遊ぼうね
(姉 湧美より)

この欄は金木町に住所を有している方々を掲載しています。掲載を希望しない方は町民課窓口へ届出の際申し出てください。

戸籍の窓

七月届出分

おめでとう

鎌田 実楽 (勇二) 嘉瀬
西村 洸 (勇士) 喜良市
下山 輝 (泰治) 金木

おしあわせに

木下 貴博 (貴博) 中柏木
樋浦 薫乃 (修一) 金木
荒関 駿佑 (俊光) 金木

中村 幸雄 (清治) 金木
塚本 美紀 (義則) 中里町
尾野 敏 (春雄) 稲垣村
山中 亮子 (慶勇) 金木
古川 優 (勝洋) 中里町
鳴海 三枝子 (義政) 嘉瀬
棟方 哲也 (治) 金木
三橋 恵子 (辰夫) 嘉瀬

おくやみ

小笠原利三郎 (72才) 喜良市
長尾 タヒ (86才) 金木
今 木 さき (87才) 嘉瀬
小山内 タヨ (92才) 嘉瀬
西村 ツセ (92才) 喜良市
角田 善一 (85才) 金木
石戸谷 みよ志 (80才) 神原
佐藤 信一 (63才) 金木
小松 久治郎 (82才) 嘉瀬
佐藤 トキ (92才) 金木
泉谷 信儀 (86才) 川倉

人口と世帯

	7月末現在	前年同月比
男	5,738人	△ 81人
女	6,314人	△ 57人
計	12,052人	△ 138人
世帯数	4,057	110

本年10月1日現在で、全国いっせいに国勢調査を実施します。

国勢調査は、9月下旬から10月上旬にかけて、「国勢調査員証」を携帯した国勢調査員が世帯を訪問し、直接、調査票を配布・取集する方法により行います。

国勢調査と称して世帯の家族構成や会社の従業員の氏名などを電話で照会する「かたり調査」にご注意下さい。

不審な電話には即答せず、相手の名前や電話番号などを聞き、お住まいの市区町村の国勢調査担当までご連絡下さい。



総務庁統計局・青森県・金木町

